

立ち直りを
支える

地域の チカラ

自己紹介と主な活動内容を 教えてください。

佐藤 多治見保護区保護司会の会長を務める佐藤優美雄(明和町)です。私は、九州の大分県出身ですが、集団就職で愛知県豊田市へ移住し、その後、多治見へ引っ越してクリーニンング店を営んできました。

青少年まちづくり市民会議やBBS会(若年層を対象とした更生保護ボランティア組織)などのボランティア活動を経て、平成3年から保護司になりました。保護司は罪を犯して保護観察を受けることになった人の生活を

保護司のこと、 どれだけ知っていますか

更生保護サポートセンター TEL 51-1881
くらし人権課 武井 TEL 22-1128



▲ 小学校で薬物乱用防止出前講座を行う佐藤さん



▲ 左から加藤さん、佐藤さん、渡邊さん、奥村さん



見守ることが主な役割ですが、それ以外に、薬物乱用防止出前講座や社会を明るくする運動などの活動も行っています。私は現在、小・中学生や高校生、一般の人を対象に、薬物についての正しい知識を広める目的で活動をする「岐阜県薬物乱用防止指導員」の東濃地区協議会会長も務めています。

加藤 副会長を務める加藤一(市之倉町)です。私は、生まれも育ちも多治見の市之倉町です。

20年ほど前、当時の会長に誘われ保護司となりましたが、最初に説明があった以上に保護司は責任のある大

変な仕事です。それでも、若い対象者たちが更生していく姿を見るのはいいものです。実際、集団でいる場合と1対1で話した場合とは全く印象が違います。頼もしい姿を見て、反対にこちらが教えられることもありま。今ではやりがいを感じながら取り組んでいます。

渡邊 副会長を務める渡邊孝司(上野町)です。保護司になって11年目になります。現在、市内で建設用の板金屋を営んでいますが、商売はほぼ息子たちに任せています。

私は、立ち直ろうと頑張っている人

たちが早く社会になじめるようにと、「協力雇用主」になっていきます。統計的に、保護観察が終わった時に無職だった人の再犯率は有職者の3倍以上です。現在、協力雇用主として登録している会社は、多治見市内で5社です。業種は建設業に偏っており、女性が働ける職場がありません。今後は、市民の皆さんの理解を得て、もっと増やしていきたいと思っています。

奥村 会計の奥村里美(御幸町)です。保護司になって17年目です。

親の介護で働きに出ることが難しかった代わりに、若いころからBへ

保護司は、罪を犯して保護観察を受けることになった人の生活を見守り、さまざまな相談にのるほか、時に助言なども行う民間ボランティアです。犯罪を予防するための地域活動なども取り組んでいます。



▲更生保護サポートセンター(豊岡町)で現状を話す保護司の皆さん

保護司の役割



家族関係

帰る所が
なかったら

更生保護施設

生活・暮らし

働く所が
なかったら

協力雇用主

地域の目

孤立して
しまったら

福祉・行政

※帰る所がなく1年未満に再犯をし再入所した人は**52.5%**

※保護観察が終わった時に無職だった人の再犯率は**28%**、有職者は**7.6%**

限界を感じながらも、
私たちができることを
精一杯やるだけ。

▽BS会に入って、ボランティア活動をしています。そうすることで、社会の一員であることを再認識することができました。保護司の活動を近くで見ていると、保護司が大変な仕事だと知っていました。私自身、更生保護活動にやりがいを感じ始めていたため、保護司になることを決めました。

保護司の仕事を分かりやすく説明してください。

佐藤 保護司は、刑務所や少年院から出所してきた対象者と直接会い、彼ら、彼女らの生活状況を聞き取り、保護観察所に定期的に報告します。これが最も重要な保護司の仕事です。多治見市内には現在38人の保護司がおり、各担当校区の対象者に対し常に気を配り、相談に乗ったり、時には助言なども行います。

奥村 その他に、先ほど会長が言われたように、薬物乱用防止出前講座や社会を明るくする運動、未成年者交通違反者講習会などの活動も行っています。

渡邊 「薬物」に関しては年代によって約80パーセントが再犯の道に進んでしまいます。医者でなければ対応し切れない場面も多くあり、常に限界を感じています。

市民の皆さんへのメッセージ

佐藤 以前は、保護司は目立たないように活動していました。なぜなら、保護司が行くところには必ず罪を犯した人がいて、地域の安全を脅かすかもしれないと考えられていたからです。しかし、立ち直ろうとしている対象者にとって、地域の皆さんの理解は不可欠です。なんと、日本の犯罪の6割は再犯者によるものです。立ち直りを支え、再犯を防止することが地域の安全につながります。

渡邊 罪を犯した人の立ち直りには、本人の努力はもちろん、地域社会の中に彼ら、彼女らの居場所と仕事を確保し、地域との絆を保つことが重要です。「ここにもいい」という安心感と、「人の役に立っている」という自信が立ち直りを支えます。

加藤 地域のチカラで支えてほしいです。犯罪が減ること、一人でも多く立ち直ること、これが保護司の願いです。

奥村 更生保護サポートセンターは平日午前10時から午後4時まで開いています。私たちは更生を望む全ての人たちの支えになりたいと思っています。悩みは抱え込まず、気軽に立ち寄ってください。